

▲内視鏡下外科手術 お腹に開けた穴からカメラや鉗子などを入れモニターを見ながら手術を行います

小さな傷で、術後の痛みも少なく、回復も早い

ない し きょう か げ か しゅ じゅつ
内視鏡下外科手術

従来の開腹手術に比べて小さな傷で手術を行うため、術後の痛みが少なく、回復も早く、早期の退院が可能な内視鏡下外科手術。美濃病院では、阪本院長が岐阜大学で内視鏡下外科手術を先導していたことから、最新設備を導入して手術を数多く行っています。今回は、当院で内視鏡下外科手術を受けられたOさんのその治療経験をお話ししてもらいました。

現役外科医師として活躍するOさんは、炎症性の大腸狭窄きょうやく（すぼまってせまくなること）を発症しました。医師という仕事の性格上、できるだけ速くに職場に復帰する必要があったOさんは、美濃病院で内視鏡下外科手術を行うことにしました。

発症

3年ほど前から便通が悪く、お腹も張り気味でしたが、痛みも無く仕事も忙しかったため、大して気にも留めずに放っておきました。

しかし、徐々に食欲も低下しはじめ、体重も減ってきたために、こりゃいかんと、近くの知り合いの医者に見てもらいました。ところが、案の定、大腸に異常が見つかりました。

大腸に炎症があり、そこが腫れて狭窄を起こしていたために、体調に異常が起きていたのです。

早速、検査結果を持って美濃病院の外科外来へ行くと、余計な検査をすることなく、レントゲンや大腸内視鏡検査などの結果をもとに、私の都合に合わせて検査治療のスケジュールを組んでもらい、1週間後に入院、その翌日に手術を受けることになりました。

内視鏡下外科手術

できるだけ早く、職場復帰する必要があった私は、通常の開腹手術ではなく、内視鏡下外科手術を行うことに決めました。

内視鏡下外科手術とは、お腹や胸などに小さな穴を開け、そこから内視鏡（カメラ）や手術器具を入れて、モニターの映像を見ながら行う手術です。小さな傷で手術を行うため、術後の痛みが少なく、回復も早く、早期の退院が可能のため、女性の方や高齢の方、働き盛りの忙しい方には恩恵の大きな手術方法です。

しかし、この手術はすべての内臓疾患で可能ではなく、通常、胆石や早期ガンなど、比較的手術が容易な病気に限定されて行われています。同じ内視鏡下外科手術でも外科医の熟練度や経験によつては治療レベルや対象疾患が広がるなど、高度な技術と高額な機材が必要な最先端の高度医療です。

手術後

術後は手術ですから多少の痛みはありましたが、がまんできないほどのものではありませんでした。手術の翌日から歩行開始しましたが理学療法士がしっかりと付き添ってくれ適切な管理のもと体力回復メニューをこなせたのであつという間に体を動かせるようになっていきました。これはとても重要で術後の内臓の癒着を防止し、また腸の治癒も促進

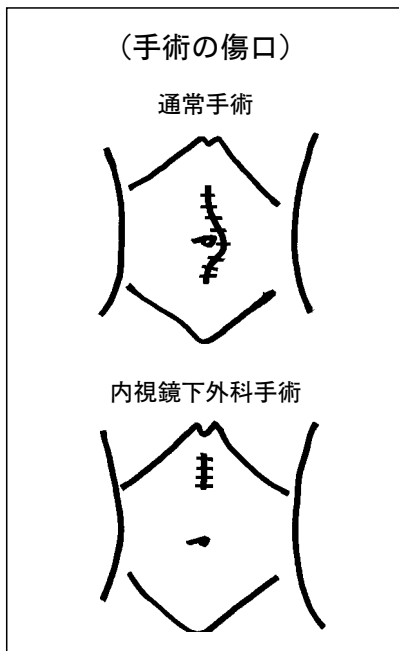
され、治りがとても早くなるのです。そのおかげで水分は2日目より飲めるようになり、5日目には、徐々に食事もとることができるようになりました。

もちろんすべてしっかり経過を観ながらで、自然で苦痛や我慢といったものとは無縁でした。そして驚くべき事に、たった10日で退院でき、2週間後には職場に完全復帰しました。これは本当にすごいことです。

さらに驚いたのは傷口がとても小さいのです。盲腸の手術に毛が生えた程度といえはわかりやすいでしょう。一昔前なら一カ月近くはかかりますし、痛みにも悩む日々ももっと長期に及んだことでしょう。日本の外科治療もついにここまで来たかといった感じです。すごい技術です。

このように医療技術は日進月歩で進んでいます。病気の治療法、術式など、お悩みの方は、お近くのかかりつけ医や美濃病院（☎33・1221）へお気軽にご相談ください。

進歩し続ける医療技術



▲エアロバイクによるリハビリ
ひとりひとりの状態に合わせてリハビリを行い、体の回復を促進させます